

知 床 硫 黄 山

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

○火山活動評価

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

○噴火警報・予報の状況（2021年7月～2022年6月）

2021年7月以降の発表履歴	現在の警報・予報（キーワード）
変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）

○2021年7月～2022年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1～5）

2021年7月19日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、北西側中腹の爆裂火口、東岳大火口及び山頂付近などに噴気は認められませんでした。また、北西側の海岸付近には、これまでの観測と同様に温泉水による変色域が認められました。赤外熱映像装置による観測では、北西側中腹にある爆裂火口の弱い地熱域の地表面温度分布は、前回（2019年7月）の観測と比べて特段の変化はありませんでした。

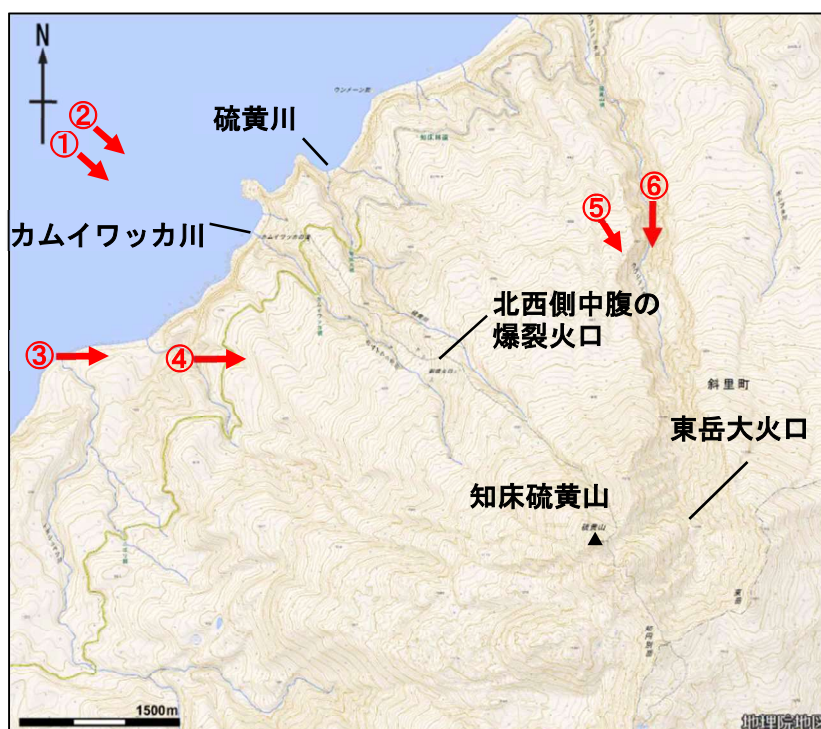


図1 知床硫黄山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）



図2 知床硫黄山 山頂部から北西側中腹にかけての状況 北西側上空（図1の①）から撮影



図3 知床硫黄山 硫黄川及びカムイワッカ川の河口付近の状況 北西側上空（図1の②）から撮影
・前回（2019年7月）の観測と同様に、海岸付近では温泉水による変色域が認められました。



図4 知床硫黄山 赤外熱映像装置による北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布
 上段：西側上空(図1の③)から撮影 下段：西側上空(図1の④)から撮影
 ・前回(2019年7月)の観測と比べて、弱い地熱域(点線で囲まれた領域)の地表面温度分布には特段の変化は認められませんでした。



図5 知床硫黄山 赤外熱映像装置による東岳大火口の地表面温度分布
 上段：北側上空(図1の⑤)から撮影 下段：北側上空(図1の⑥)から撮影
 ・前回(2019年7月)の観測と比べて、特段の変化は認められませんでした(一部領域で周囲に比べて温度が高く見えるのは日射による影響と考えられます)。